

# 文部科学省「研究大学強化促進事業」筑波大学

平成25年度配分予定額：300百万円

- 学長をリーダーとする「研究戦略イニシアティブ推進機構」に研究リソースを結集
- 「計算科学研究センター」と「生命領域学際研究センター」の世界トップレベル拠点化
- 世界トップレベル研究を推進する「国際テニユア・トラック制度」などの国際化施策
- 本部と部局のURA30人体制による強力な研究支援を実施

## 学際融合領域開拓を推進する研究力



朝永振一郎 元学長  
江崎玲於奈 元学長  
白川英樹 名誉教授  
ノーベル賞受賞者

## 世界トップの研究拠点形成

- ・計算科学研究センター
- ・生命領域学際研究センター

拠点強化形成

URA30人体制構築

研究環境整備

制度改革

少数精鋭型  
+ 大規模拠点型  
世界ランキング  
100位以内

10年後

## ゴードン・ベル賞 最高性能賞

(理研、富士通、筑波大、東大の共同)



## 研究設備の共用化



睡眠科学(本学単独)  
ナノテク(NIMS MANAに協力)

## 産学官連携体制の強化

つくば国際戦略総合特区  
国際科学イノベーション拠点(慶応大学と共同)

5年後

他に類を見ない学術分野  
(スポーツ医学、体育科学、芸術学)の強化

■世界ランキング(QS)  
203位  
(ベンチマーク V1、Q2)



チーム「ニッポン」マルチサポート事業

# 筑波大学の研究力分析

## 研究・教育体制の特色

### 1. 講座制を廃し、グループ制

- ・若手など独立した教員による多種多様なテーマ
- ・学際的融合的研究体制を構築できる
- ・プロジェクトベースのため、継続的・大規模研究しづらい  
⇒研究競争力欠如

強み

弱み

### 2. 人社、理工、生物、医学に芸術、体育、図書館情報を擁す

- ・「大学らしい」総合大学
- ・マルチサポート・システムの枠組みでのスポーツ科学
- ・多くの教員組織、個性の反面、支援や活動が分散し非効率

強み

弱み

### 3. 多くの小規模研究センター

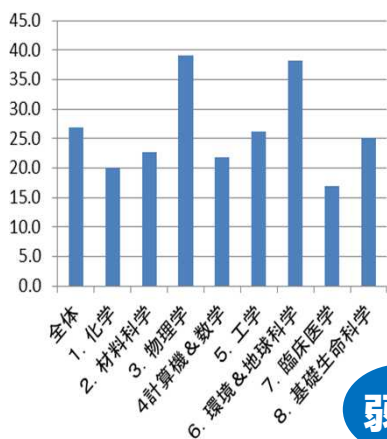
- ・多種多様な21の研究関連センター
- ・災害、エネルギー問題等の喫緊の社会的課題に対応する研究
- ・センターには人事権が無くセンター長のリーダーシップが発揮できない

強み

弱み

## 研究力の定量的分析

### 国際共著率\*



弱み

国際共著率:要向上

### サブジェクトカテゴリ別世界被引用数200以内ランキング

サブジェクトカテゴリ別 世界被引用数 200以内ランキング

サブジェクト	筑波大学 39件
応用化学	150
化学(学際)	108
物理化学	86
物理学	78
材料科学	74
工学	60
環境 & 地球科学	52
基礎生命科学	48
臨床医学	42
計算機 & 数学	38
生物学	32
物理学	28
材料科学	24
工学	20
環境 & 地球科学	16
基礎生命科学	12
臨床医学	8
計算機 & 数学	4
生物学	0

200位以内に39カテゴリ  
 ・物理 5カテゴリ  
 ・生命 13カテゴリ

物理学、生命科学、人文社会科学分野に強み

### 大型科研費文科別獲得件数(H16-24)\*

物理	8件
生命	9件
人社	3件
理工	4件
その他	3件

### 産学連携指標

#### 1. 共同研究実績(H23)

順位	件数
合計	278
うち民間	223

#### 2. 受託研究実績(H23)

順位	件数
31位以下	38

#### 3. 特許権実施等(H23)

順位	件数
2	76

#### 4. 大学発ベンチャー(H20(H21.3))

順位	受入額
2	76

1~3の出典: 大学等における産学連携等実施状況調査(文部科学省)

4の出典: 「大学発ベンチャーに関する基礎調査(経済産業省)」

産学連携に弱み

弱み

\*印の出典はすべて「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング」

# 研究力強化の骨太方針

学長のリーダーシップのもとに学内リソースを集約し研究強化推進



## 研究戦略イニシアティブ推進機構（機構長：学長）

### 拠点強化形成

- 計算科学研究センター、生命領域学際研究センターを世界トップレベル拠点へ
- ➔ **人事権付与(学則改正)**
- 3つのトップダウン方式の研究拠点形成

#### 3つの重点取組

- ① 国際強化：国際テニュアトラック
- ② 一流外国人研究者招聘
- ③ 研究時間の質と量保証

### 研究環境整備

- 研究設備の共用化（オープンファシリティー）
- URA**30**人体制構築
- 研究スペースの重点的配分

### 制度改革

- **全学戦略枠**を担保にした**年俸制**の拡充
- 教員の評価軸の構築と研究時間保証/機能分化
- 産学官連携体制の強化

若手 22.7% ➔ **30%**以上  
女性 15.6% ➔ **25%**以上  
外国人 5.0% ➔ **11%**以上



# 筑波大学の研究大学強化促進事業における施策

## 重点的な研究力強化策

- 計算科学研究センターと生命領域学際研究センターを人事権のある世界トップレベル研究拠点に
- 世界的研究拠点を目指す3つの学術センターを設置

3つの重点取組:

- ① 国際テニュア・トラック制度
- ② 一流外国人研究者の招聘
- ③ 研究時間の質と量の保証

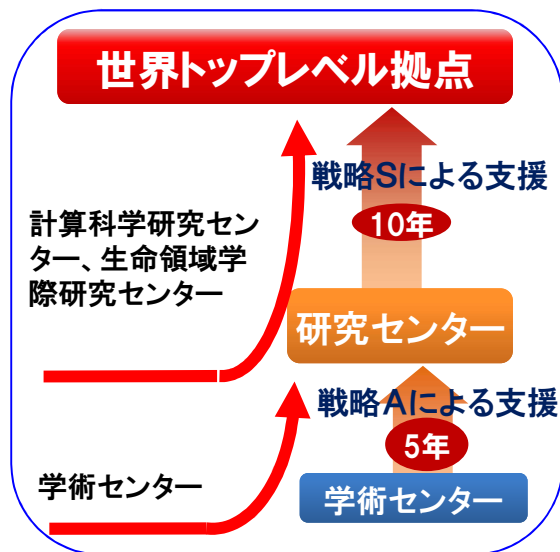
## 基盤的な研究力強化策

### ● URA30人体制構築

「研究戦略イニシアティブ推進機構」による研究力強化策を本部、部局URAの連携で学内展開

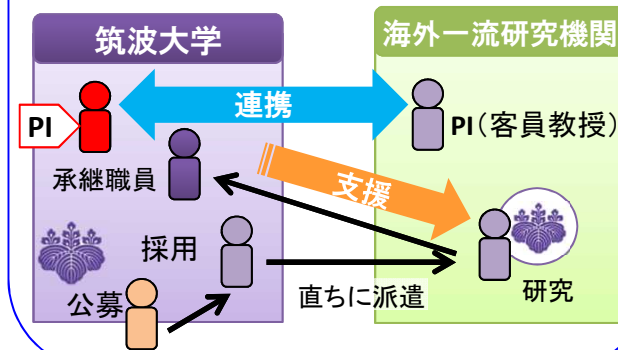
- 研究設備共用化の促進 (オープンファシリティー)
- 国際共同研究の推進
- 産学連携体制の強化

### ■ 重点的な研究力強化策の例: 研究拠点形成



### 国際テニュア・トラック制度

テニュア審査期間の研究を海外一流研究機関(共同研究先)で行い、そこでの業績をテニュア化審査に利用。長期的な国際研究のパイプ構築を目指す。



### ■ 基盤的な研究力強化策の例: URAの確保と活用

